

社会科(歴史的分野)学習構想案

期 日 令和4年11月18日(金)第3校時
 場 所 熊本大学教育学部附属中学校 視聴覚教室
 学 級 熊本市立桜木中学校2年3組 33名
 指導者 熊本市立桜木中学校 教諭 本田悠介

1 単元構想

単元名	第5章 2節「欧米の進出と日本の開国」(東京書籍「新しい社会 歴史」P.160~167)			
単元の目標	(1)近代社会を成立させた欧米諸国のアジア進出が、日本の開国へ影響を与えたこと、開国の影響で人々の生活が大きく変化したことを、江戸幕府の滅亡までの流れと関連付けて理解することができる。 (2)江戸幕府の滅亡と明治新政府の政策の背景に、欧米諸国の接近という外的要因だけでなく、日本国内で幕府への批判や新しい国づくりの思想の広がりなどの内的要因があったことを捉え、江戸幕府の倒幕が進められた理由を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 (3)開国から倒幕、そして明治時代を迎えるまでの過程を、当時の国際情勢、開国による政治的・経済的影響、新しい思想の広まりなどを関連付けて考察し、主体的に追究している。			
単元終了時に期待する生徒の姿				
江戸幕府が倒幕された背景に、欧米の情勢や国内の動き、新しい日本の国づくりを目指した思想の広がりがあったことを理解し、新時代の日本が目指すべき方向を多面的・多角的に考察して表現できる生徒。				
指導計画と評価計画(10時間取扱い 本時9/10)				
過程	時間	主に働かせたい見方・考え方と発問	横井小楠、坂本龍馬、吉田松陰との関連	身につけさせたい力(知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	1	【背景・原因・結果】 ・西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允などが、江戸幕府を倒して新しい国づくりをめざした理由を、これまでの学びをもとに予想しよう。	坂本龍馬(倒幕に向けて動いた人物として)	・明治維新を進めた西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允らが、倒幕して国の仕組みを変えようとした理由を、主体的に追究しようとしている。(態)
	単元を貫く課題：明治維新を進めた人々は、なぜ倒幕して新しい国の仕組みを作ろうとしたのだろうか。			
課題追究	1	【背景・原因・結果】 ・欧米諸国が、中国やインドなどのアジア各地へ侵略を進めたのは、なぜだろうか。		・イギリスなどの欧米諸国が、工業製品の市場や原料の供給地を求めてアジアへ進出した背景や過程を理解することができる。(知・技)
	1	【背景・原因・結果】 ・江戸幕府は、なぜアメリカと2つの条約を結び、開国したのだろうか。	吉田松陰、坂本龍馬(黒船の来航への対応、考え)	・江戸幕府が開国に踏み切った理由を、政治や国際情勢を踏まえて、多面的・多角的に表現することができる。(思・判・表)
	2	【影響・変化・相関関係】 ・開国と貿易の開始によって、日本の政治と経済はどのような影響を受けたのだろうか。	吉田松陰(尊王攘夷運動への影響、安政の大獄)	・開国による物価の上昇や国内の産業などへの影響を、グラフなどの資料を読み取って、表現することができる。(思・判・表) ・開国後の政治の動きについて、幕府や朝廷などの関係を図や表で整理して、理解することができる。(知・技)
	2	【背景・原因・結果】 ・江戸幕府は、どのような流れで滅亡したのだろうか。	坂本龍馬(薩長同盟、徳川慶喜への大政奉還の進言)	・幕府側の大政奉還のねらいと新政府側の動きを踏まえ、徳川氏の政権の返上から戊辰戦争までの過程を理解することができる。(知・技)
課題解決	1	【背景・原因・結果】 ・明治維新を進めた人々は、なぜ倒幕して新しい国の仕組みを作ろうとしたのだろうか。	吉田松陰、坂本龍馬(課題解決のための資料として)	・明治維新を進めた人々が倒幕して新しい国づくりを目指した理由を、欧米の情勢や国内の動き、新思想の広がりを踏まえて考察し、多面的・多角的に表現することができる。(思・判・表)
	1	【比較】 ・横井小楠と坂本龍馬は、日本をどのような国にしたかったのだろうか。(本時)	横井小楠、坂本龍馬、吉田松陰(国は七条と船中八策、三人の思想の違い)	・新時代の日本が最初に実現しようとした政策を予想し、その根拠を、幕末の情勢や課題、横井小楠と坂本龍馬の思想などの複数の視点を踏まえ、多面的・多角的に表現することができる。(思・判・表)
	1	【推移】 ・横井小楠らの考えは、明治新政府の国づくりに反映されているのだろうか。	横井小楠(明治時代の国の仕組みとの関連)	・明治新政府の立憲制国家が作られるまでの大きな流れを、政治の仕組みの変化に着目して捉え、次単元への見通しを持つことができる。(知・技)

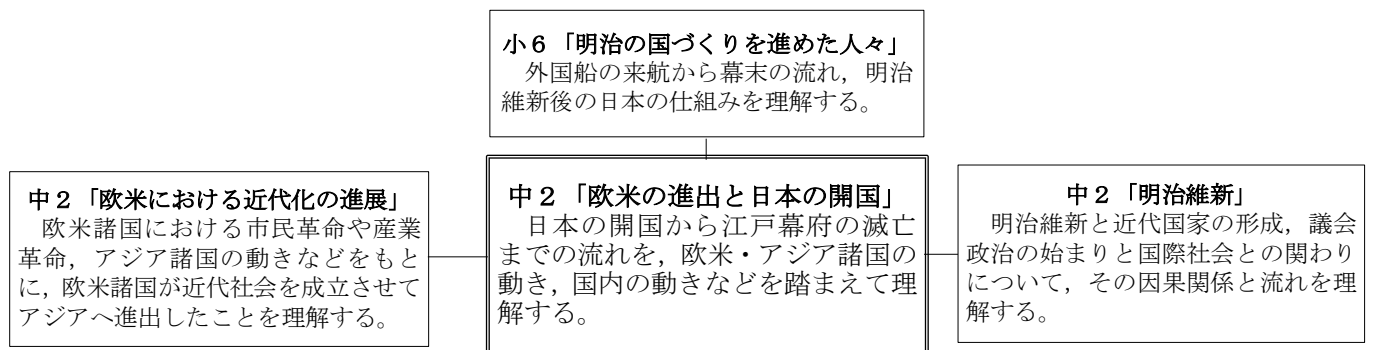
2 本実践のねらいと生徒の実態

本実践（単元）のねらい

本単元は、学習指導要領の歴史的分野の内容「C 近現代の日本と世界」の「(1)近代の日本と世界」にあたる。欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと、それに伴って幕府が対外政策を転換し開国に踏み切ったこと、開国が政治的・経済的に大きな影響を与えたこと、そして混乱の中で新しい国づくりに向けてさまざまな思想が広がり、各藩の人々に影響を与えたことにより、江戸幕府が倒されて滅亡し、日本が新しい時代に向かい始めたという背景と過程を理解させることをねらいとしている。

本実践では、このねらいに迫るために、倒幕への動きと新しい国づくりに向けた思想の広がりに着目させる。西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允などが倒幕と明治維新を進めた背景に、幕末思想家の動きが大きく関わっていることを捉えさせたい。そのための教材として、横井小楠と坂本龍馬を取り上げる。横井小楠は、時代の先を読む改革的で開明的な思想で「国是七条」を幕府に進言するとともに、坂本龍馬や吉田松陰などに大きな思想的影響を与えた。また横井小楠に思想的影響を受けた坂本龍馬は、「船中八策」や「新政府綱領八策」に新政府が目指すべき体制を記すなど、新しい時代のビジョンを明確に示していた。新時代を見据えた国づくりの思想の広がり、倒幕に向けた動きを関連付けて考えさせることで、幕末という時代の動きを総合的に考えさせる。そして、単元を通じた学習活動によって、歴史的事象を多面的・多角的に捉えて考察する力を身に付けさせたいと考える。

本単元における系統



生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習する以前の内容理解 （単位：人）

- ①幕末に活躍した薩摩藩、長州藩の人物と、その人物が行ったこと
 - ・西郷隆盛、大久保利通などの薩摩藩と、木戸孝允などの長州藩が、薩長同盟を結んで幕府と戦った。
 - ・薩摩藩と長州藩が尊王攘夷運動を進め、倒幕した。 ・西郷隆盛によって、江戸城が無血開城された。
- ②坂本龍馬は、どのような人物だと思うか
薩摩藩と長州藩の仲介役となった、薩長同盟を結ばせた、剣術がすごく上手で戦いで活躍した、暗殺された、土佐藩を動かして大政奉還を提示した、土佐藩を脱藩したのちに勝海舟とともに海援隊を結成した、など
- ③横井小楠は、どのような人物だと思うか
熊本で有名な人物、私塾を開いていた、四時軒を建てた、幕末の思想家、武士でありながら儒学者でもあった、最後に暗殺された、熊本に小楠堂を開いた、坂本龍馬と政治について話した、政治顧問となった、幕政改革を行おうとしたが失敗した、明治政府の基礎となる仕組みを考えた、など
- ④江戸時代から明治時代に、どのような流れで変わったと思うか
 - ・幕府を倒し、王政復古の号令により、徳川氏の影響を完全に無くした。
 - ・幕府が行き詰まり、不満がたまり、新政府軍と旧幕府軍の代表同士で話し合いをした。
 - ・物価の上昇、外国船の受け入れなどにより人々の不満が高まり、尊王攘夷運動がおこり、薩長同盟の勢力によって幕府が大政奉還をした。

■本単元の学習に関する意識の状況 （単位：人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
歴史の学習に、意欲的に取り組んでいますか。	10人	15人	1人	1人
これまでの学習内容(江戸時代の日本, 欧米における近代化の動き)を、理解することができましたか。	4人	11人	11人	1人

■考察

本学級は、歴史学習に対する意欲は概ね高いが、学習内容の理解には課題を感じている生徒が半数近くいる。幕末の歴史について、「外国船の来航」「開国の影響」「薩長同盟と倒幕の動き」「大政奉還と王政復古の号令」などは触れていたが、人物や立場ごとの相関関係、歴史的事象の流れを明確に説明できる生徒はいなかった。坂本龍馬、横井小楠については、幕末の偉人という抽象的なイメージを抱く生徒が多く、幕末の歴史に与えた影響を具体的に触れられた生徒は少なかった。

3 指導に当たっての留意点

- 単元の学習の中で読み取ったり活用したりしたグラフや資料を、グループ分けしながら蓄積し、単元のまとめにあたる課題解決の活動で活用する。そうすることで、単元の課題を解決するために資料読解等の活動を改めて確保することなく、資料を適切に用いて説明ができるようにする。
- 幕末における人物の関連や動きを分かりやすく捉えられるよう、タブレットを適切に活用する。図でまとめる活動を取り入れることで、学習内容を視覚的に理解しやすいようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 横井小楠と坂本龍馬の思想の比較を通して、幕末の情勢や課題に気づき、新時代の日本が実現しようとした政策について多面的・多角的に表現することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項
導入	5分	1 横井小楠と国是七条について知る。 (1) 坂本龍馬の肖像画を見て、人物像を確認し、2つの資料のどちらが「船中八策」なのかを考える。 (2) 船中八策ではない資料は、誰が考えたものかを予想する。 (3) 横井小楠と「国是七条」について知る。	○坂本龍馬と横井小楠の二人を、肖像画で提示することで、生徒の関心を高められるようにする。
		【学習課題】 横井小楠と坂本龍馬は、日本をどのような国にしたかったのだろうか。	
展開	10分	2 横井小楠の「国是七条」と坂本龍馬の「船中八策」を比較し、共通点を考える。 (1) ロイロノートの資料から共通点を見出し、ラインを引く。 (個人思考) ◇議論 ◇優れた人材 ◇貿易 ◇海軍・軍隊 (2) 幕末の情勢を踏まえ、これらの案が出された理由を考える。 (3) 全体で意見を出し合う。 ◇欧米諸国が強くなっていた。日本に接近していた。 ◇日本が欧米諸国と不平等条約を結ばされていた。 ◇幕藩体制では、徳川氏などの一部の人しか政治を行っておらず、政治が行き詰まっていた。 ◇江戸幕府には、議論をして物事を決める仕組みがなかった。	○例示をすることで、全員が一斉に取り組みやすいようにさせる。 ○二人の考えの共通点と、幕末の情勢や課題を結び付けて考えられるよう、必要に応じてこれまでの学習を振り返らせる。
	25分	【追究課題】二人の考えの中で、新しい国の仕組みとして、最初にどれを実現していくべきだろうか。 3 幕末の課題をもとに、倒幕後、二人の共通した考えの中で最初にどれを実現していくべきなのか、理由と併せて考える。 (1) 個人で考える。 (2) 班で考えをまとめる。 (3) 全体で意見を出し合う。 ◇海軍・軍隊の整備：欧米諸国が日本に接近しており、日本が戦争で負けたり植民地になったりしないようにしなければならぬから。 ◇公平な貿易：欧米諸国から一方的に不平等条約を結ばされたうえに、開国した影響で国内の経済が混乱し、人々が苦しい思いをしているから。 ◇議論で決める仕組み：さまざまな課題に対応するために、何事も多くの人で話し合って解決していく仕組みを作る必要があるから。 ◇優秀な人材の登用：欧米諸国が接近する中、これから国を正しい方向に導くためにも、リーダーを一部の人から選ぶのではなく、日本中から幅広く選ぶべきだから。	○考える根拠として、これまでの単元の学びで触れた内容や資料などを活用できるように、助言する。 ○意見が偏った場合は、「国のため」「人々(庶民)のため」など立場を踏まえて問い直すなど、揺さぶりをかける。 ○全体で意見を出し合う中で、「外圧」「内圧」の大きく2つの要因があったこと、特に「外圧」については、倒幕後、早急に対応する必要があったことに気づかせる。
終末	10分	4 横井小楠と坂本龍馬について、二人の関わりと、それぞれの人物が目指した方向や思いについて、教師の説話を聞く。 5 本時の学習内容を振り返り、感想を書く。	○人物相関図を示し、3人の思想家が相互に関わっていたことを確認させる。 ○それぞれの人物が目指した方向や思いに触れ、時代の転換に向けてさまざまなアプローチがあることに気づかせる。

(3) 評価

評価の観点	評価基準
思考・判断・表現	A：新時代の日本が最初に実現しようとした政策を予想し、その根拠を、幕末の情勢や課題、横井小楠と坂本龍馬の思想などの複数の視点を踏まえ、多面的・多角的に表現している。
	B：新時代の日本が最初に実現しようとした政策を予想し、その根拠を、幕末の情勢や課題、横井小楠と坂本龍馬の思想などのいずれかの視点を踏まえ、表現している。